



フィギュアスケートの影響で

幼稚園の頃に姉と一緒にフィギュアスケートを習い始めました。幼少期は競技の楽しさをわかっておらず熱心さに欠けていました。トップ選手の演技を見ることもありませんでした。しかし、中学生の時に観たある選手の演技があまりに素晴らしく、感激し、私はファンになりました。一度辞めていたフィギュアスケートを再開し、真剣に向き合うようになりました。当時、選手自らが大学の卒業論文でフィギュアスケートにおけるAIの採点についての解析を大学で研究していることを知りました。そのことがきっかけで、スポーツ工学という分野にも興味を持つようになりました。

多面的に考え、情報系の進路を検討

大学選びはとても悩みました。国公立や私立ということにはこだわりがなく、分野を絞るのが難しかったです。医薬系も進路として考えていました。しかし、自分が医療現場で働くことについてのイメージが持てませんでした。もう一方で興味があったスポーツ工学についても考えました。幅広く、スポーツにもつながる考え方が得られたらいいと思い、工学部の情報系を検討しました。富山大学の工学部について調べたときに、「感性工学」という分野があり、興味を持ちました。ここなら医療もスポーツも、「情報を使って解析する」ということが出来るのではないかと思います。富山大学工学部知能情報工学コースを受験し、進学することになりました。

高校とは違う大学での勉強

大学に入学したタイミングはコロナ禍で、最初のオリエンテーション以外では対面授業が5月くらいまでありませんでした。大学での勉強のペースをつかむのに苦労しました。しかし、対面授業が再開してからは、最初のオリエンテーションで仲良くなった友人と支え合って乗り切りました。3年後期で研究室を決めるときは、興味のある分野の研究をしていることに加え、モチベーションが高い人が多い研究室を選びたいと思いました。

巡り巡って、医薬系の研究へ

学部生のときに、企業の方との面談機会がありました。院進学か就職活動で悩んでいた時に、「行けるのであれば大学院まで行って学んだほうがいい」とアドバイスをいただきました。医学系の研究をしたいと決めていたので、先輩のアドバイスに後押しされて大学院進学を決めました。

大学院での学びは、学部時代に比べてより専門性が高く、楽しいです。現在所属する田端俊英先生の生体情報処理研究室は工学系でありながら、医薬学に関わっています。現在はアプタマーという特定の分子に結合する一本鎖DNA/RNAを医薬利用する研究を進めています。高校生の頃に悩んだ進路でしたが、ここに来て繋がったと感じています。

大学院卒業後は、製薬会社で臨床開発職に就きたいと考えています。



お世話になった高校の先生へ

受験当時は、進路に関して色々悩みました。たくさん支えていただき、ありがとうございました！大学生活や研究、就活を通して自分がどの道に進みたいのが明確になってきました。